QUALITY ASSURANCE
JIC
REGISTERED
ORGANIZATION
No.0430-ISO9001
ISO9001認証取得

molten®

INNER FIRE

情熱とは、あなた自身の内なる炎。
一途にトレーニングに励むときも、
戦いに敗けても挫けず
何度も果敢に挑戦し続けるときも、
熱く、まばゆく燃え続ける。
熾烈な戦いのなかで、
すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。



■ 日本リーグ唯一の公式試合球
■ 全日本実業団連盟主催大会唯一の公式試合球

32H312Y ヌエバ ¥6,825(本体価格¥6,500)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・3号球
カラー（黄×黒）

32H212Y ヌエバ ¥6,615(本体価格¥6,300)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・2号球
カラー（黄×黒）
(標記の価格はメーカー希望小売価格)

株式会社 モルテン　東京本社　〒130-0003 東京都墨田区横川五丁目5-7　大阪・名古屋・福岡・広島四国・仙台・札幌・モルテンUSA・モルテンヨーロッパ・モルテンタイランド・モルテンメキシコ　www.molten.co.jp

輝く日本ハンドボール界、金の卵達へ



㈶日本ハンドボール協会 副会長　**市原　則之**

アテネオリンピックから２ヶ月が過ぎ、秋も深まりを見せてまいりましたが、オリンピックの熱気はいまだ冷めていません。また、９月には同じアテネの地でパラリンピックが行われました。メダルの力は偉大です。スポーツが社会、人間を元気にする力のあることを証明しました。ストレスの多い現代社会でスポーツの果たす役割は益々増してくるものと思われます。

８月 12 日から 29 日まで、日本オリンピック委員会理事、ゴールドプラン委員長としてアテネに滞在し、全身でスポーツの素晴らしさを体験してきました。皆さんもテレビ、報道でご存じのように、アテネオリンピックでは日本選手団は事前の予想をはるかに上回るメダルを獲得することが出来ました。現地で選手達は互いの健闘を讃えながら、相乗効果もあり大変盛り上がっていました。ただ、そこにハンドボール選手の姿が見られないのが残念であり、北京には必ずや出場せねばという決意を新たに致しました。

今回活躍した競技を総括しますと、JISS（国立スポーツ科学センター）を活用した競技が成果を上げているようです。体操然り、女子レスリング然り、水泳然りです。これからの競技力向上には科学的裏付けのあるトレーニングは不可欠。また、選手強化ばかりでなく国際場面での国際担当役員の発言力も大事な要素です。併せて、コーチング技術、戦術・情報分析、医・科学サポートなどが課題となり、審判、ドーピング対策等、総合的なチームとなった取り組みが必要となります。

しかし、何より重要なのは選手です。如何にして良い選手を発掘し、育てていくか。ハンドボール界には NTS（ナショナル・トレーニング・システム）があります。小さい頃からハンドボールに馴染んでもらい、素質のある金の卵を発掘し、一貫指導のもと育て、スターとしてプレーをしてもらいたいと思います。小学生の皆さん、中学生の皆さん、君達、あなた方が将来のスターなのです。国際舞台で活躍し、オリンピックのハンドボール会場に日の丸をたなびかせるのは皆さんです。さあ、チャレンジして下さい。期待しています。

日本ハンドボール界、当面の目標はオリンピックに是が非でも出場することです。その悲願の前には常に韓国が立ちはだかり、神戸では夢の直前まで迫りましたが叶いませんでした。

北京オリンピック予選まであと３年、そのためには選手、指導者、審判、役員はもとより、都道府県協会、市町村協会、各連盟と日本協会が一丸となって立ち向かわなければなりません。

皆様方の、ご理解、ご協力とお力添えをよろしくお願い致します。

第33回 全国中学校ハンドボール大会

大会総括

情熱溢れるプレーに感銘

千葉県小中学校体育連盟ハンドボール専門部委員長
石川　常登（千葉市立花園中学校）

平成16年度全国中学校体育大会　第33回全国中学校ハンドボール大会が8月21日から24日まで、千葉市ポートアリーナと千葉県総合スポーツセンター体育館で開催されました。

千葉県でハンドボールの中学生の全国大会を開催するのは初めてのことでした。また、千葉県勢はここ数年、関東ブロックの壁を突破できず、全国大会には出場できていない状況下での開催となりました。しかし、この大会の円滑な運営を最大の課題にしながら、開催が決まった以上、千葉県の競技力向上の契機ととらえ準備を進めてきました。

男子のゲームについて

大会は、1回戦から逆転や1、2点差の好ゲームが展開されました。なかでも男子2回戦の氷見南部（富山）と宮（愛知）の対戦は1点差を争う好ゲームとなり、氷見南部が激戦を制しました。準決勝では関東の雄けやき台（茨城）をこれも接戦で制し、決勝戦まで駒を進めました。宮もけやき台も、前評判とおり攻守のバランスのとれた優れたチームでした。

逆ブロックの「台風の目」的存在は大阪東でした。2回戦で個人技能に勝る浦西（沖縄）を激闘の末かわし、さらにこのところ全中の顔になっている御幸山（愛知）を破り決勝に進出しました。



石川委員長の勤務先、花園中学校チームも出場

男子決勝の氷見南部と大阪東戦は、前後半で同点となり、さらに第二延長までもつれ込む実力伯仲のゲームになりました。最後は氷見南部が粘る大阪東を振り切り、優勝の栄冠を勝ち取りました。どちらも似たような雰囲気のチームで、ゲームの中で生じる「流れ」を的確に判断したベンチワークや1点に一喜一憂しない選手の精神力を含めた試合運びの妙が勝敗の分かれ目だったように思われます。

女子のゲームについて

女子は、上野芝（大阪）が緒戦から相手を速攻のスピード、セットでの威力、堅い守りとバランスがとれた戦いぶりで優勝に輝きました。このブロックでは、宝神（愛知）・岐陽（山口）が精度の高い速攻、シュートを繰り出し、基本に忠実なプレーの重要性を観客にアピールしました。上野芝は、昨年度に続く2連覇という結果を残し、女子部として31年ぶりとなる偉業を成し遂げたことになります。

決勝戦で上野芝と戦った神森中（沖縄）は、堅実な守備のGKを中心に強力な守りと、広い視野で次の展開をよく読んだプレーを中心に据え、スピーディーなゲーム運びで勝ち上がってきました。準決勝では、2度全国優勝経験がある大増（埼玉）が試合の流れを呼び込み、速攻、ミドルシュート、コンビプレーなど多彩な攻撃を展開しました。神森はその都度何度も凌ぎ、速攻で加点していく戦いが印象に残りました。

大会を終えて

大会を終え、多くのゲームを観戦し各チームの情熱溢れるプレーに感銘を受けました。なにより、地元の補助

員として参加した生徒や後輩達には、中学生の頂点を争う選手の技術や身体能力、さらに強い精神力を間近で見られたことが大きな財産になったと思います。

この大会期間中、全国中体連の先生や協会の役員の方、各ブロック長、またOBの方々より今後中学生の部活動のあり方や競技強化、普及の方向性など多岐にわたりご意見ご指導をいただきました。千葉県専門部として競技への取り組みの転換期と捉え、競技力の向上に繋げていきたいと思います。

最後になりますが、大会を支えてくれた役員・補助員生徒、全国の各ブロック長の先生方、関東専門部の先生方に対して心からの感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

さらに、(財)日本ハンドボール協会、(財)日本中学校体育連盟、千葉県、千葉県教育委員会、千葉市、千葉市教育委員会、千葉県ハンドボール協会、千葉県小中学校体育連盟、千葉市小中学校体育連盟その他多くの方々の多大なるご支援、ご協力により、この大会を開催できたことを心より感謝いたします。

来年度、愛知県豊橋市で開催されます第34回大会の成功を祈念して大会終了の報告とお礼といたします。



写真提供：スポーツイベント社

地元実行委員会の声

中学生のハンドボールに対する情熱に感動



千葉県実行委員会事務局長　**加藤　伸彦**（千葉市立若松中学校）

視察から開催まで

平成16年度全国中学校体育大会　第33回全国中学校ハンドボール大会を、千葉県千葉市で開催しました。全国各ブロックを代表する男女各19チームに、開催県代表男女各1チーム、計40チームをお迎えしました。

平成14年度の和歌山大会、平成15年度の函館大会を千葉県小中体連ハンドボール専門部のメンバーで視察し、そして昨年8月に準備委員会、今年の4月に実行委員会を設立し、運営企画案を作成しました。千葉県で開催する初めての中学校全国大会ということもあり、日本中学校体育連盟、日本ハンドボール協会のご指導ご協力をいただき、運営が円滑に進められたことに対し、感謝申し上げます。

実行委員会の目標は「全国から来県する選手の皆さんを温かく迎えよう」を掲げました。今までの開催県の各大会が大変すばらしいものでしたので、それに匹敵する大会を開催するために千葉県として出来ることは何かを暗中模索する日々でした。すべての面を充実させることが大切であり、日頃の練習の成果を遺憾なく発揮できる試合会場を整え、そして思い出に残る開閉会式にするためにどのように運営するかに取り組みました。どこまで選手の皆さんに満足して頂けたかはわかりませんが、関係者のご協力をいただきながら全力で取り組みました。

多くの人の協力

大会運営面での最大の課題は、人数の少ないハンドボール専門部においてどのように競技役員を確保するかでした。そんな状況の中で、まず関東ブロックの各都県委員長の皆さんの全面的なバックアップをいただけたことが一番大きいことでした。そして大会には地元千葉県の中学生、高校生のハンドボール部の皆さんがたくさんお手伝いにきてくれました。特に、オフィシャルを担当していた千葉県立佐原高等学校、千葉県立幕張総合高等学校、受付接待係を担当していた千葉県立千葉商業高校の皆さんは、態度や応対も大変すばらしく、多方面からお褒めの言葉をいただきました。

さらに開催市である千葉市内の小中学校の先生方も、全国大会の運営に参加することはそうある機会ではないということで、今大会の競技役員を快く引き受けて頂きました。大会期間中、私たち専門部の手が足りず、休日であるにもかかわらず、会場美化や駐車場、各練習会場の担当としてご協力いただけたことは、円滑な大会運営のための大きな要素となりました。

そして、競技部長の佐々木先生をはじめとする各ブロック長の先生方には、実行委員会では気がつかない、選手を第一に考えたアドバイスをいただけたことも大変助かりました。日本中体連のハンドボール専門部の方々は毎年の大会を支えて頂いているので、運営にあたっては



写真提供：スポーツイベント社

大変心強い味方でした。

大会開催と今後の課題

このように、今大会は我々千葉県実行委員会だけではとても運営できる規模ではなく、ましてや出場する３年生にとっては３年間の最後を飾る最大の大会です。選手の皆さんに持てる全ての力を出し切ってもらうために努力しましたが、ご迷惑をおかけいたした部分もあったのではないかと思っています。広いスペースのある練習会場を大会会場の近くに設置できなかったことやメイン会場の千葉ポートアリーナと千葉県総合スポーツセンター体育館の選手の交通手段などは課題として残りました。

この大会を運営させて頂いて、あらためて中学生のハンドボールに対する情熱や監督さん、チーム関係者の皆さんの選手を大切にする心に感動させられました。選手の皆さんの開会式での力強い入場行進。延長の末、初優勝の栄冠を勝ち取った男子の富山県氷見南部中のスピードあるプレー。女子の部で連覇を達成した大阪府上野芝中の歓喜あふれる笑顔等は大会運営をしたすべての関係者をほっとさせるものがありました。

末筆ではありますが、今大会を運営する上でお世話になった大会関係者、選手監督の皆様、そして応援に駆けつけていただいた保護者の皆様に心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。

男子優勝監督の声

地元チームに感謝　～日頃の切磋琢磨による勝利～



富山県氷見市立南部中学校監督　佐原　孝信

去る８月21日～24日に開催された、第33回全国中学校ハンドボール大会では、優勝という思いもよらない結果を残すことが出来ました。

私達は、体格に恵まれず、ずば抜けた選手もいないチームでしたし、北信越大会後チームの柱、松原君の腰痛が悪化し、練習できずに大会に臨むことになり、何回試合ができるかな、何日に帰ることになるのかなと思いながら千葉へと向かいました。

いざ大会が始まると、全てが苦しい試合の連続でした。４点差を追いかけるスタートとなった試合や後半逆転された試合、一点差を争うシーソーゲーム等、何度も負けを覚悟しました。特に決勝戦では、第一延長でも決着がつかず、第二延長に入る接戦となりました。しかし、選手達はあわてることなく試合の流れを引き寄せようとしました。苦しい時ほどディフェンスに集中し、フットワークが冴えました、そして、松原君、釜谷君がサイドディフェンスを引きつけて出したパスを両サイドが確実に加点してくれました。

本大会を終え、我々のチームを振り返ってみると、同じ市内の北部中、西條中の存在が大きかったと思います。市、地区、県、ブロック大会で勝ったり、負けたりしながら切磋琢磨しチーム力を上げることができたからです。また、市協会や地域の方々、卒業生など多くの人々にたくさん支えてもらったり、育ててもらったりしました。

今、３年生の多くはJOCという新たな目標に向かって歩み出しました。これからも、どの様な形であってもハンドボールに関わりながら、次の世代、次の次の世代



写真提供：スポーツイベント社

に恩返ししてくれるような生徒が一人でも多く育ってくれることを願っています。

女子優勝監督の声

地区大会から始まっていた連続優勝への道



堺市立上野芝中学校監督　杉田　学



写真提供：スポーツイベント社

２年連続優勝という結果で締めくくった千葉大会は、生徒達はもとより、保護者、監督、コーチ陣にとっても生涯思い出に残るものとなりました。選手はじめ、応援して下さった保護者、学校及びハンドボール関係者の皆様に重ねがさねお礼申し上げます。

昨年度に続き本年度も、本校にとって手強いチームが多い中、一戦一戦を全力集中で勝利をおさめていくことが出来ました。また、決勝戦では全員の力が一つになり、最高の出来で優勝することが出来ました。技術的には本校と互角、またはそれ以上のチームもあったかと思いますが、精神面で多少本校が上回っていた分で勝つことが出来たと思います。さらに、戦術的には積極的に高いDFからの速攻が上手く機能できたのも勝因だと思います。

印象に残ったゲームは本大会ではありませんが、同じ近畿大会で、昨年からのライバル校である京都の大住中との一戦です。昨年の近畿大会決勝で延長戦の末敗れ、近畿２位で全国へ行くこととなり、その悔しさをバネに本校は大きく成長したと思います。今年の近畿大会では、ベスト８で大住中にあたり、負ければ引退と最悪のくじにもかかわらず、大差で勝つことが出来、近畿１位で全国へ通過することが出来ました。

全国では、初戦の松橋中戦で好スタートを切り、宝神中戦、岐陽中戦と苦しみながらも自分たちの力を出し切り、決勝の神森中戦まで進むことができました。前評判の高いチームで、簡単には勝たせてはくれないと思っていたとおり、前半は 10 － 10 の同点で折り返しました。後半本校に退場者が出た時に、加点できたことやポストプレー、速攻などで上野芝中のペースを掴むことが出来たのが勝因と思われます。この結果に満足することなく、今後も頑張って指導に当たりたいと思います。

本大会を支えて下さった、千葉県ハンドボール関係者、役員、スタッフの方々、本当に有難うございました。



写真提供：スポーツイベント社

第17回 全国小学生ハンド

大会総括

神森小学校（沖縄県浦添市）が男女とも優勝

浦添市ハンドボール協会会長　保栄茂 朝信



浦添市と小学生ハンドボール

県ハンドボール協会は、広くハンドボール競技を一般に知ってもらうことをねらいとして、1983年に第1回沖縄県小学生大会を開催した。その時の参加チームは、海邦国体の開催地である浦添市（沢岻小）、東風平町（東風平小）、沖縄市（宮里小）の3チームであった。優勝チームが九州小学生大会に派遣されるようになり、他県と交流のない沖縄の子どもたちにとって大きな目標になった。それを機会にして、浦添市内の学校に次々とハンドボール部ができた。

しかし、当初教員の異動で危うくなりかけていた部の存続も、今では父母会の協力により外部コーチが引継ぐようになり、強化されるようになった。ハンドボールを知らない父母が多かった中で試合会場に足を運ぶ機会が増え、ハンドボールを知るようになり、ますますハンドボール熱が高まってきている。

現在、浦添市内の小学校11校のうち9校にハンドボールクラブがある。競技人口としては約450名。中学校、高校、一般を含めると900名程度の競技人口である。

小学校の全国大会優勝は、男女で13回の実績がある。最近では，今年の神森小のアベック優勝を含め6ヵ年連続日本一に輝いており、すべて浦添市内の小学校チームである。日頃の合同練習をはじめ、練習試合などを通して各チームのレベルアップにもつながっている。

浦添市のハドボールの強さの要因

(1) 交流試合と審判講習

小学生大会では、クラブが参加料を払えば何チームでも参加することとができる。低学年のチームも試合に参加できるので試合ができる児童は喜び・楽しさを味わい、競技人口の拡大につながっている。この交流試合で、ハンドボール未経験の父母の審判実技講習も行っている。ちなみに、今年の市ハンドボール祭りの参加チーム数は43チームであった。

(2) 外部コーチや地域の方々の理解と協力

当初は、教員による指導が中心であったが、今では、ほとんどのチームが父母会を中心とした外部コーチによる指導が行われて、しっかりとした指導者の後継者づくりもできている。父母会や地域の大きな支援が心強い。

(3) 行政の支援

浦添市は、県外派遣に係る財政面での補助を全面的にバックアップしており、児童生徒の意欲や父母の関心もさらに高まっている。

浦添市は、今年の1月に「ハンドボール王国都市宣言」をした。小中高校の子どもたちの活躍が他の児童生徒に夢と希望を与え、市民の誇りにもなっている。

市民の関心の高い中、若手の監督・コーチ等の後継者も育ちつつあり、これからのますますの発展を期待する。

神森小学校「全国大会アベック優勝祝賀会」の様子



舞台で挨拶をする選手達



体育館は多くの人達で埋めつくされた

ボール大会

第17回全国小学生ハンドボール大会は、7月30日（金）～8月1日（日）に京都府京田辺市で行われ、沖縄県の浦添市立神森小学校ハンドボールクラブが男女アベック優勝をした。男子は2年連続3度目。女子は2年ぶり3度目の全国優勝である。

（大会結果の詳細は p.24：スコアールーム②に掲載）

校長先生の声

粘り強い努力で勝ち取ったアベック優勝



浦添市立神森小学校校長　瑞慶覧　長美

本校の教育目標は、①楽しく運動する健康な子　②よく考え進んで学ぶ子　③思いやりのある心豊かな子、と設定しています。

今、本校ハンドボール選手の皆さんは、楽しく運動する健康な子を踏まえて、健康で心も体も丈夫な子、進んで体をきたえ運動を楽しむ子、ねばり強く最後まで頑張る子を常に心にとめて、勉強、遊び、係活動、委員会活動等、充実した学校生活及びハンドボールの練習に励んでいる。

そのことが、他の在校生に良いお手本となり、我が校はハンドボールが強い、学校を誇りに思い、学校を愛する心が育ちつつあると思います。

そして、監督･コーチ等の指導者の教え方も的確で、「学校･勉強が一番、ハンドボールは二番」をモットーに、厳しい練習の合間に選手の皆さんの手助けもしてくれました。このことは、まさに知・徳・体のバランスのとれた学校教育目標の具現化の達成に役立ち、明るい、元気な学校づくりに大きく貢献しています。

平成16年度は、これらの成果が発揮され、第17回全国小学生ハンドボール大会で史上初のアベック優勝の輝かしい栄冠を勝ちとりました。これも、選手の皆さんがねばり強い努力で得た体力とスピード、監督・コーチ等の指導をしっかり受けとめる素直な心、多くの関係者の皆様の物心両面にわたるご協力の賜物だと確信しています。

今後も選手の皆さんの「心・技・体」「知・徳・体」の調和のとれた成長・発達を目指すため、保護者、地域、行政、教職員､多くの関係者の皆様のご支援をお願い申し上げます。

監督の声　－ハンドボールの指導を通して　　男子監督　翁長　誠光

身も心も健やかに育てる



神森小学校のクラブを指導するようになって、早7年になります。女子の宜野座監督と二人三脚で試行錯誤しながらの7年間でした。辛いときもありましたが、二人ともハンドボールが大好きで、それ以上にハンドボールをしている子どもたちが大好きだから頑張ってこれたと思います。

平日の練習時間は1時間前後で、土日が3時間と短い時間の中で、子どもたちが飽きない練習メニューを考えるのが一番の苦労です。ハンドボールという競技を通して「子どもたちを身も心も健やかに育てる」ことが大切だと自負していますが、子どもたちも十人十色で思うようにいかない時もあり､これからの私のテーマだと思います。

この7年間で子どもたちからも沢山のことを学ぶことができました。本当に子どもたちには感謝しています。

浦添市（行政）・地域（神森校区）・学校・ハンドボール協会の協力と父母会という大きな支えがあるからこそ小学校でのスポーツ活動が成り立っていると思います。

今後も、子どもたちにはハンドボールという競技を通して「感謝の気持ち」「人として思いやる気持ち」が育つように一緒になって学んでいきたいと思います。

監督の声　－ハンドボールの指導を通して　　女子監督　宜野座　伸

感謝の気持ちを忘れないことを教えたい



昨年6月、5年生主体のこのチームは全国予選で負けて悔し涙を流しました。その日のミィーティングの中で来年は｢全国制覇」を目標に、この1年間頑張ってきました。

その結果、男子の翁長監督との指導を始めた頃からの長年の夢であった、『アベック優勝』を果たし、男女併せて 5 年連続日本一になることができました。

今年のチームは小柄な子が多いので、速攻とディフェンスに多くの時間をかけ練習してきました。この大会で印象に残った試合は、準決勝戦の当尾小（熊本県）との試合です。チームカラーが私たちのチームと似て、苦しい試合内容でした。

私のモットーとしていることは、「学校、家での手伝いをすること」それは、先生、親に対して感謝の気持ちを忘れないようにするためです。

今後は、自分自身ハンドボールをもっと勉強して、子どもたちとたくさんの汗を流していきたいと思います。

今回、優勝できたのも、日頃から選手をサポートをして下さっている父母会をはじめ、学校関係者のお陰だと感謝申し上げます。また、大会前に、毎日のように練習相手になってくれた男子チームにも「ありがとう」とお礼を言いたいと思います。

選手の声　ーアベック優勝をして　　男子キャプテン　玉城　慶也



練習はウソをつかない

僕たち男子ハンドボールクラブは、京都で行われた第 17 回の全国大会に沖縄県代表として出場しました。

準々決勝では、茨城県の守谷クラブとの延長戦の末勝ちましたが苦しくて泣き、決勝戦では 1 点差というきびしい戦いでした。

その時、翁長監督が「がんばれ、今まで練習したことを出せばいい、練習はウソをつかない。」と励ましてくれました。新城コーチ、尚美コーチ、先生やお父さん、お母さんたちもいっぱい応援してくれました。僕たちは、『守って一点、守って速攻、これが神森魂だ』を胸にがんばりました。

そして、去年に続き優勝することができ、本当にうれしかったです。

ハンドボールを通して知った、がんばりと勇気と礼儀を忘れずに、そして、たくさんの人への感謝の気持ちも忘れずにこれからもみんなとがんばっていきたいと思います。



選手の声　ーアベック優勝をして　　女子キャプテン　下地　真梨乃



チームで同じ目標を持つこと

私たち神森小学校は、「ハンドボール王国都市宣言」のまち沖縄県浦添市にあります。　全国大会を目の前にして、全国制覇への思いは一段と大きくなり、練習にも磨きがかかりました。

全国大会初戦の前日は緊張しすぎて、あまり眠れませんでした。

しかし、試合が始まるといつものペースを掴むことができ、初戦、2 回戦、3 回戦と勝つことができました。

準決勝は、熊本県の当尾小学校と戦うことになりました。コーチから「あわてず、練習したことをプレーに出せば絶対勝てる。」と言われました。この試合は、今大会の中で一番厳しい試合でしたが、自分たちのプレーが一番発揮できた試合でもありました。結果は 19 対 17 で勝つことができました。

決勝戦は、富山県の仏生寺スポーツ少年団と戦い、15 対 8 で勝ち優勝することができました。

私たちが全国制覇できたのは、チームで同じ目標を持つことができたことと沢山の人達の支えや応援があったからです。

私たちは、次の目標である九州大会での優勝に向かって、これからもがんばります。



奈良県ハンドボール協会会長

土井 喜光氏



瑞宝双光章 受章のお祝い

奈良県ハンドボール協会顧問　中井 慶一郎

平成 16 年春の叙勲で、奈良県ハンドボール協会会長、土井喜光氏が永年に亘る教育（体育・スポーツ）分野での功績を讃えられ、瑞宝・双光章の栄をお受けになりました。心よりお祝い申し上げます。

土井会長とハンドボールの出会いは、奈良師範学校（現在の奈良教育大学）の在学中で、今から 60 余年前に遡ります。それ以後、ハンドボールの技術向上、普及、発展に尽力されてまいりました。昭和 24 年、奈良師範を卒業され、組合立の都南中学校（現在の奈良市立）に赴任され、奈良県下の中学校に初めてハンドボール部を創設されました。昭和 29 年の第 4 回近畿中学校総合体育大会において早くも優勝され、優秀な指導者としての手腕を発揮されました。

以来、昭和 35 年から、生駒町立生駒中学校（現在の生駒市）に転任され、当時生駒町内の中学生を中心にハンドボールの普及に務められ、町内全ての中学校にハンドボール部の創設を働きかけられました。先生の教えを受け、全日本で活躍した監督や選手を輩出し、現在の生駒市の市技はハンドボールと呼ばれる基礎を築かれました。

昭和 59 年に開催された「わかくさ国体」当時は、県ハンドボール協会の理事長として尽力されました。また、当時は県教育委員会保健体育課に勤務され、生駒市の要請で国体準備室に席を置き、「一人二役」を担い、国体開催の中心的な立場で立派にその重責を果たされました。

国体終了後は、生駒市立生駒南中学校、生駒中学校の校長を歴任され、県中学校体育連盟の会長として、学校体育、スポーツの発展に寄与されました。平成 13 年 10 月には、日本体育協会より国民体育大会功労者特別賞を受賞されました。

平成 9 年から、奈良県ハンドボール協会第 3 代会長として、組織の強化、普及、発展を柱に掲げ、ご活躍いただいています。

この受章を機に、益々のご活躍とご健康を祈念し、お祝いの言葉といたします。

第12回全日本ハンドボールマスターズ大会

「エンジョイ！ ハンドボール」

東北社会人ハンドボール連盟理事長・花巻市ハンドボール協会理事 **長谷川富男**

東日本で初開催

詩人、童話作家、農業指導者であった宮沢賢治の郷イーハトーヴ岩手花巻で、北海道・岩手・東京から個人参加した5名を含む、北は青森、南は沖縄までの男子27チーム、女子12チーム、合計39チームの総勢412名の参加により、第12回全日本ハンドボールマスターズ大会は開催されました。

今大会は、東北社会人連盟の主催で2年前から開催されている第3回東北社会人ハンドボールマスターズ大会も兼ねて開催されたものです。前年度までの常連チームに加えて、地元岩手からは男女10チーム、青森から「七戸ユニオン」、秋田から「湯沢クラブ」など、かつては全日本総合選手権にも名を連ねた東北の懐かしいチームが参加して、大会を盛り上げていただきました。

初日、開会式の前には、第1回11人制大会が開催されました。最高齢71歳の河内氏を筆頭に、大阪、京都、愛知、岩手から参加した還暦前後の往年の名プレーヤーたちが梅雨明けしたばかりの晴天のもと、緑の芝生コートではつらつと汗を流しました。11人制を初めて目にする地元関係者の面々は、さながら､映画「フィールド　オブ　ドリームズ」を彷彿とさせるような錯覚を覚えながら、ハンドボールの原点を目の当たりにすることができました。この様子は地元のテレビ局が取材して､夕方ニュース番組で放映されました。

２日目から順位決定型は花巻市総合体育館3面、交流型は富士大学スポーツセンターの熊本世界選手権で使用されたタラフレックスコートを含む4面の合計7面で、7人制競技が開始されました。連日真夏日を記録する中、猛暑を吹き飛ばす「ナイスプレー」の連続でみなさんには心地よい汗を流していただきましたが、数件の怪我等がでてしまいました。内容はアキレス腱の負傷、脳震盪（熱中症？)、肋骨や手首の骨折、突き指等です。今大会ではアスレチックトレーナー及び柔道整復師によるテーピング・コーナーを設置しましたが、今後も何らかの予防措置は不可欠であろうと感じた次第です。

こども交流タイムとレセプション

毎年恒例の「こども交流タイム」も昨年に引き続き名古屋の若松義則氏に指揮を取っていただき、地元の花巻クラブジュニアや大会参加者の子供たち“未来のハンドボーラー”が大人と一緒にレクリエーションやルール理解ゲームの後、ハンドボールゲームを楽しみました。

２日目の夜、花巻温泉のいで湯につかって疲れを癒したあと、宮沢賢治がこよなく愛した花巻農業高校の生徒による郷土芸能「鹿踊り（シシオドリ)」のオープニングでレセプションの幕が上がりました。花巻農業高校は宮沢賢治が教鞭をとった唯一の学校でもあります。前年度開催県の泉丘会から“黒霧島10升”が振る舞われ、あちらこちらで久しぶりの再会に酒を酌み交わして昔を懐かしむとともに他チームとの交流に花が咲き、500人近いハンドボーラーの集いは、あっという間に会場せましと談笑の輪が広がりました。ステージでのエレクトーン奏者の弾き語りをＢＧＭに和やかに宴は流れ、マジックショーに子ども達が大喜びし、飛び入りの沖縄マミーズ“チャイニーズダンスショー”には、会場から割れんばかりの大歓声が沸き起こりました。

フィナーレ

最終日、みなさん筋肉痛に鞭打ちながら必死のがんばりをみせて､ゲームは午前中で終了しました。順位決定型男子は、埼玉フェニックス、女子は風見鶏ファミリーがそれぞれ前年度優勝チームを退けて優勝を飾りました。

表彰式では､順位決定型1位から3位チームに､日本協会、教職員連盟からそれぞれ賞状と、大会事務局から賢治こけしトロフィーが贈られました。交流型上位の男子､湯沢クラブ、泉丘会、兵庫選抜、女子、ギャロップレディース、瀬戸内レディースには、花巻市長賞として民芸品が、さらに、各チーム代表2名には、優秀選手賞（宮沢賢治直筆ふくろうの絵入りガラス製ペーパーウェート）が贈られました。表彰終了の後、佐野和夫教職員連盟名誉会長の講評により、全日程を終了しました。

東北社会人ハンドボール連盟発足と花巻市ハンドボール協会

東北社会人連盟は、平成9年から東北ハンドボール協会の傘下に入り、事業として、クラブ大会、マスターズ大会な

どを担当しています。東北マスターズ大会は２年前からスタートしました。今後継続にあたって、女性の参加が課題となっているところです。そのことを踏まえて、子ども達のハンドボールに目をむけ、マスターズ大会と小学生レベルの大会を同時開催し、「親子でハンドボール」なるものの実現に向けて普及活動を推進していく所存です。

花巻市は、岩手県から地域シンボルスポーツ推進事業のハンドボール種目の指定を受け、花巻北高が拠点校となって各種事業を展開中であります。今大会もそのひとつであり、全国から集まっていただいた関係者の方々と懇親を深めつつ今後のハンドボールの普及発展に向けた話し合いで盛り上がりたいと思っておりました。また、花巻ではマスターズ大会終了の翌日から一週間、全日本男子チーム及び大崎電気チーム合同合宿、８月７～８日 NTS 東北ブロックトレーニング、８月 19 ～ 22 日東北総合体育大会、９月 25 ～ 26 日県高校１年生大会、９月 25 日日本リーグ花巻大会と各種事業が目白押しです。９月 14 日～ 10 月４日まで計５回、市体協主催によるハンドボール教室では、小学生と市内にはハンドボール部のない女子中学生を対象にハンドボールに親しんでもらいたいと思っております。今年４月には市協会組織を一新して、普及強化の体制を整え、“ハンドボールの町” を目指しているところであります。

終わりに

本大会では初めて 11 人制を開催しましたが、たいへん素晴らしいスポーツと感じました。これからも継続して経験のない人でも参加できるような配慮があればいいと率直な感想を持ちました。



順位決定型予選リーグ：ガンバ花クラ vs 海自桜錨会：
７ｍスローを打つ長谷川富男氏

今後、マスターズでは南北（東西？）交互開催が予定されています。今回は東北社会人連盟もかかわって協力しましたが、全国各地区でも社会人連盟を組織してマスターズ大会を支えてほしいものと思っています。オリンピックに日本のハンドボールが出場していないことは、我々ハンドボーラーにとって寂しい思いでいっぱいです。生涯スポーツとしてハンドボールを楽しむとともに、子ども達とも大いに関わりをもって、将来オリンピック選手が育つように底辺拡大に努めたいものです。

今回の大会開催にあたり、ご支援いただきました日本ハンドボール協会、全日本教職員連盟、関係団体、協賛各社、地元スタッフ、並びに、参加選手のみなさんに心から御礼申し上げますとともに、来年開催の大阪大会の成功を祈念申し上げ、マスターズ花巻大会の報告とさせていただきます。

※大会結果はスコアルーム⑤（p.26）に掲載

11 人制ハンドボールの復活を目指して

㈶日本ハンドボール協会（マスターズ担当）　小山 哲央

復活の経緯

緑の芝生の上で燦々と輝く太陽のもと、上半身を裸にして 11 人制ハンドボールを楽しんでいる光景を、今でもヨーロッパの各地で見ることができるという話を以前から聞いておりましたが、国内では復活の声を何度も耳にしながらもマスターズ大会での実現には及びませんでした。昨年の宮崎でのマスターズ大会の会場で、平成 16 年度マスターズ大会開催地の実行委員会事務局長、岩手県立花巻北高校の中島昭博先生に 11 人制開催の件を相談させて頂きましたところ、「マスターズ大会の主会場となる総合体育館に隣接して、芝生のサッカー場がありますからできないことはないですよ」との返事を頂きました。これは 11 人制ハンドボールを復活させる絶好のチャンスと感じ、開催実現に向けて、より具体的な活動を開始しました。

更に、今年の２月に花巻市で開催されました、第２回マスターズ実行委員会に出席させて頂きました折に、岩手県協会名誉会長箱崎敬吉氏から、日居城野運動公園の陸上競技場は昭和 24 年に開催された岩手インターハイの時に、11 人制ハンドボールがデモストレーションとして開催された場所で、言わば岩手県のハンドボール発祥の地であるとのお話を伺いまして、急遽会場をサッカー場から陸上競技場のフィールドに変更させてもらい、またとないシチュエーションを得、大会開催に向けて絶好のスタートを切ることができました。

又 11 人制ハンドボールに関しては、私自身も高校１・２年生の２年間しか経験したことがない忘却状態にありました。そこでＡ・Ｔ・Ｆの浅田、高橋、冨田、の３先輩を初めとしまして、東大、京大定期戦で 11 人制ハンドボールが毎



写真提供：花巻市ハンドボール協会

年実施されているとの情報を得て、京都大学 OB 川野春雄氏、東京大学 OB 佐尾邦久氏ら多くの方々から suggestion を受けることができました。このようにして記憶をたどりながら 11 人制ハンドボールの復活を何とか実現することができました。

第 1 回 11 人制ハンドボール大会のゲームに臨んで

今回はマスターズ大会参加チームへの広報活動が十分にできなかったこともあり、葵クラブ、LBC アルバトロス、教職員連盟の連合と HC 名古屋 A・T・F と中部ドリームズ、岩手県有志の連合の 2 チームの参加に止まりました。

開会式は、岩手県協会名誉会長箱崎敬吉氏のごあいさつで始められ、続いて全日本教職員連盟名誉会長佐野和夫、本大会審判長で教職員連盟副会長の島崎政治の両氏からご挨拶を頂き、ゴールポストを背景に全員集合写真の撮影の後、箱崎敬吉氏のスローオフの笛で試合が開始されました。前半は葵、LBC アルバトロス教職員連盟の連合チームが試合に慣れているということもあり、リードを奪うが我々のチームも岩手県有志の北村尚英、増田学の両ベテランの適切な指示を頂き、ゲームのペースをつかみ始めると除々に追いつき、逆転したところで前半を終了するという展開となりました。

7 月 23 日（金）のこの日は丁度梅雨明け宣言が気象庁から出され、30 度近くの気温に蒸暑さも加わる中、後半は男性、女性の選手が入れ替わり立ち代わり交代しながら後半の 25 分間を戦いました。この熱戦の中、大阪府協会理事長中村博幸氏、副理事長谷口賢次氏、岩手県協会理事長谷藤勝美氏、マスターズ大会実行委員会事務局長中島昭博氏の 4 人も観戦だけではもの足りず、飛入り参加するなど和気あいあいの雰囲気のなか、終了の笛が吹かれました。最後に参加者全員が円陣を組み、京都大学 OB 川野春雄氏の音頭で相互にエールの交換をかわし、第 1 回 11 人制大会の幕を閉じました。

11 人制大会の今後

最初に申し上げました通り、緑の芝生の上で夏の青空の下、11 人制ハンドボールができたことについて経験者も未経験者も参加者全員がゲームを満喫し、感激の声をあげました。役員や選手の皆様はこの大会の継続をそれぞれ口々に求める意見を語る中、来年度マスターズ大会開催を決定している大阪府協会の中村博幸理事長も閉会式の場で、11 人制ハンドボール大会の実施（継続）を声高らかに宣言して下さいました。

又、マスターズ大会の参加チームに今回アンケート調査を実施しましたが、11 人制の大会について調査したところ、参加チームの 7 割以上が復活を支持され、更にその半数が来年度の参加を希望するとの結果もでてきました。

このような現状の中、是が非でも 11 人制大会を今後も継続し、11 人制世代の人達と未経験の男女チームが参加し、レクレーションスポーツとして 11 人制ハンドボールを定着させてゆきたいと考えております。

大会参加者の声

念願のマスターズ大会

函館市　**高橋美幸**

私は、この度、宮沢賢治の生まれ育った岩手県花巻市へ、はるばる北海道函館よりやって参りました。私にとってマスターズ大会は目標であり、前々から参加したかった大会でした。

今回は個人参加で初の単身遠征となりました。チームは埼玉のスズッキーズに入れてもらうことになりましたが、メンバーの年齢をみると、なんと私がチームで最年長だったので少しショックでした。スズッキーズの皆さん、平均年齢を上げてしまい申し訳ありません…。ともあれ初めて会った私を快く受け入れてくださった皆さんには、感謝しています。試合もはじめはなかなか動けませんでしたが、回を重ねるごとにだんだんなじんできたように思います。皆さんのサポートのおかげでシュートを決めることができました。久しぶりにハンドボールを楽しませて頂きました。

会場では、大学時代の先輩や後輩と会えて学生時代の思い出話ができました。また、コートを見ると、若い頃あこがれ


スズッキーズの皆さんと。前列左端が高橋さん

ていた元全日本選手の方々がハツラツとプレイされていて、私はその試合に釘づけになりました。どの試合も参加されている皆さんのプレーは気迫に満ちあふれ、ナイスプレーの連続で、つくづく大会のレベルの高さを感じました。

レセプションも盛大に行われ、中でもステージ上で踊る沖縄マミーズの皆さんのステキなチャイナドレス姿は今も目に焼きついています。

今回マスターズ大会に参加し、ますますハンドボールが好きになりましたし、また、生涯スポーツとして、できる限り、続けていきたいと強く思いました。

今大会を企画運営された役員の皆様、暑い中、本当にお疲れさまでした。素晴らしい大会でした。今後も、全国の生涯現役ハンドボーラーの皆様とまたお会いできることを楽しみにしたいと思います。

多くの出会いに感謝

沖縄県マミーズ　高良郁子

マミーズが結成され早10年になります。子育ても一段落し、楽しみながら、健康のためにハンドボールをしたいと思うメンバーを中心に活動が始まりました。6年前にマスターズ大会があることを知り、「まず参加することに意義あり」と、第7回山口大会に参加しました。その時の驚きとショックは今でも忘れません。ハンドボールはどちらかというと選手寿命の短いスポーツだと思い込んでいたからです。ところが、ゲームに参加している他府県のチームには、50歳を越えてなおコート上を走り回っている方々がいらっしゃるのを拝見して、「ハンドボールも続けていれば生涯スポーツとしてやれるのだ」と私たちに勇気と意欲を持たせてくれました。それから、マミーズは毎年マスターズ大会を楽しみに、また一つの目標として活動してきました。

沖縄県内には女子リーグがあり、一般女子10～12チームが10月から2月にかけてリーグ戦を繰り広げています。年間の試合数もかなり多くなり、体力がずいぶんついてきたように思います。そのおかげで、一昨年、昨年とマスターズ大会で優勝することができました。今年は残念ながら3連覇することはできませんでしたが、また来年にリベンジをかけたいと思います。


チャイナドレスの踊りに会場は拍手喝采

マスターズ大会は、ゲームだけではなく、各チームとの交流を図るレセプションも楽しみの一つです。特に、今年は文化の町、岩手県花巻市ということで、とても楽しみにしていました。そのゆかりの地で「何か心に残るイベントをしようじゃないか。」と考えたのがチャイニーズダンスでした。レセプションが少しでも盛り上がってくれたらと思いましたが…。マミーズは大満足です。

また、大会を重ねるごとに多くの方々との出会いもありました。特に、武蔵野クラブさんには5年前に沖縄遠征をしていただき、沖縄の地で私たちと楽しい交流を図ることができました。これもマスターズ大会を通しての素晴らしい出会いと思っております。

年々チーム数も増え、マスターズ大会も活性化されてきました。その反面、運営に携わる協会の方々、また、岩手県スタッフの皆様にとって大変なご苦労だったと思います。紙上ではありますが、感謝の意を表しお礼を申し上げます。ありがとうございました。

全国マスターズのみなさん、また、来年大阪でお会いしましょう。


ユニフォーム姿の皆さん

メジャー化への挑戦

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

全日本実業団選手権が終わったと思ったら、1週間後には長丁場の日本リーグがスタートした。男子は上位4チームがプレーオフに進出するシステムになったが、最大の注目は男子・ホンダ、女子・広島メイプルレッズの未到の7連覇達成だろう。

そうした中、男女とも出足は大荒れとなった。男子は昨季上位3チームに土がつき、全7チームすべてが勝ち点を挙げ、女子はメイプルレッズが2戦目でソニーセミコンダクタ九州に思わぬ黒星。今シーズンの波乱を予感させると言っていいかもしれない。

こうした状況が続けば、チームにとってはなんとも苦しいが、一方でファンにとってはこれほど楽しいことはない。最後まできびしい混戦が続けばなおうれしいし、会場が盛り上がることは間違いあるまい。また、視線を変えればファンサービスにはもってこいと言えるだろう。

リーグは今シーズンからファンサービスを徹底させることになった。球技では残念ながら唯一アテネ五輪出場を逃がし、連日の興奮状態から蚊帳の外に置かれたことは記憶に新しい。こうした悔しさを次の北京大会で味わうのはしのびない。そこで日本リーグが手を打ったキーワードが「ファンを大切に」だ。

開幕に先立って行われた監督会見の席上でも、リーグ機構の市原会長が強烈にメディアにアピールしたという。

「選手は試合終了後、30分間は会場から帰ってはいけない」

その時間を利用してサインをしたり、記念撮影に応じようというもの。これによって選手とのふれあいの場が増え、地域との結び付きがこれまで以上に強まることを望んでいることは明らかだ。リーグ勢は日本代表に直結している。こうした機会を通して選手を身近な存在として感じてもらえれば、リピートファンも増えるだろう。また、青少年がハンドボールに興味を持つことにもなるはず。さらには競技人口が増えることで代表強化にも必ずプラスになるだろう。

聞くところによると、開幕時点ではまだ徹底していない会場があったということだが、出来る限り早く取り組みたいものである。ＪＯＣ理事でもある市原機構会長のアテネでの肩身の狭い思いはこれまでのオリンピック以上だったことだろう。北京へ胸を張って行くためにメジャー化へことあるごとに挑戦したい。

埼玉県協会便り　遠藤健次埼玉県協会副会長叙勲祝賀会開催される

埼玉県ハンドボール協会では、本県ハンドボール協会副会長遠藤健次氏(元浦和市立高校)の春の叙勲(旭日双光章)の受章をお祝いし、去る7月18日（日）さいたま市内のホテルにて受章祝賀会を開催いたしました。当日は、日本ハンドボール協会大西武三専務理事をはじめ、関東各地より多数のハンドボール関係者ならびに浦和市立高校OBの出席をいただき、盛会のうちに先生のお祝いをすることができました。



高知県協会便り　武田末男（高知県理事長）CMに出演

この夏、高知県内のテレビに武田末男氏（日本協会理事、高知県協会理事長）の顔が映し出されました。キリンビール高知支社のCM（写真）で、2004年3月～7月までオンエアされたとのこと。CM出演は3年前に続いて2回目。「たっすいがはいかん」、高知弁で「ピリッとしていないのはいけない」という意味のキャッチフレーズでとてもおいしそうにビールを飲んでいる姿が印象的なCMでした。



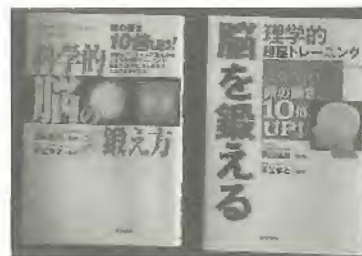


ハンドボール関係者の本出版案内　西山逸成氏監修「脳を鍛える」(牧野出版)、「科学的脳の鍛え方」(冬至書房)

長年にわたり日本協会医科学委員長として、現在はアジア連盟医科学委員としてご活躍の西山逸成氏（医学博士・元防衛大学教授）の本が出版されています。医療ジャーナリストである児玉孝之氏の編著作に監修されております。

脳の活性化を如何にして行うか、脳の鍛え方について解説した本です。

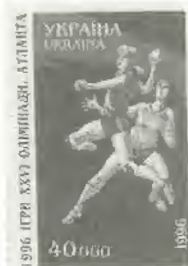
※西山氏の第8回アジア女子選手権（2004.8）のレポートは次号に掲載いたします。



◆ハンドボール・アラカルト◆　切手に見るハンドボール（10）

昨年10月号（No. 444）より紹介して参りました世界のハンドボール切手も今回で最終回になります。今号では1996年アトランタオリンピックのウクライナ（写真①)、サウジアラビア（写真②)、2000年シドニーのセネガル（写真③)、2004年アテネのハンガリー（写真④：ボールゲームでハンドボールではなさそう）です。

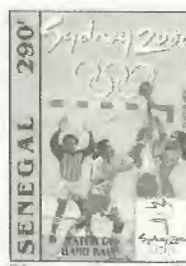
10回にわたって世界のハンドボール切手を紹介してきました。このシリーズでは日本の切手4種類を含む計35種類の切手を紹介いたしました。国際ハンドボールの機関誌である「ワールド・ハンドボール・マガジン」では、フランスのコレクターが130数種類コレクションしているとありました。皆さんも探してみませんか。



切手①



切手②



切手③



切手④

2004 日韓交流小学生ハンドボール大会 in 浦添市



平成16年9月23・24・25日、浦添市民体育館において表記大会が開催されました。本大会は第2回目で、昨年は浦添市の小学生が韓国に遠征し、本年は韓国・仁倉（インチャン）初等学校の女子選手12名が来日し、浦添市内のチームと交流試合を行いました。大会は主催：(財）日本体育協会、(財）沖縄県体育協会、浦添市体育協会、主管：沖縄県ハンドボール協会、浦添市ハンドボール協会。

交流試合は23日宮城、当山、仲西小学校、25日港川、浦城、牧港小学校25日内間、沢岻、神森小学校が対戦。仁倉初等学校ハンドボール部は1983年3月創部、全国大会優勝6回、準優勝4回、3位6回の強豪チームです。交流試合の結果は以下の通り。

第1日	仁倉 13-6 宮代	仁倉 15-8 当山	仁倉 13-4 仲西
第2日	仁倉 13-5 港川	仁倉 16-7 浦城	仁倉 13-7 牧港
第3日	仁倉 20-4 内間	仁倉 13-5 沢岻	仁倉 7-7 神森

以上韓国チームの8勝1分

25日には北谷町サンセットビーチでバーベキュー大会の歓迎会を予定していましたが、台風のため急遽神森小学校体育館での会となりました。歓迎レセプションは、市内小学校ハンドボール部員全員が集まり、父母も含め300人を越える盛大なものとなりました。

大会は交流、親善が大きな目的であったが韓国チームのスピードと、選手個人の運動能力の高さ、ボールを取ることに対する執念など見習うことも多く、実り多い大会となった。　また、交流大会開催にあたって沖縄県ハンドボール協会会長保栄茂朝信さん（神森小学校教頭）が、琉球新報に紹介されました（写真）。





保栄茂 朝信さん（51）

ハンドボール交流で　ハイサイ

○…22日から26日まで、ハンドボールの親善試合で韓国からの小学生チームを浦添市に招いた。歓迎行事など市ハンドボール協会会長としてフル回転。「地域、父母会、学校、OB、指導者が協力的で楽です」と組織の結びつきを信頼する。海邦国体の際、浦添が競技の会場だったことから協会が普及に努めた。今では九州、全国大会で優勝71回（1月現在）を数え、"ハンド王国"を築く。しかし「もともと浦添は陸上、バレーボールが強かった。いろんな競技のスポーツ王国を築けば子どもたちの夢も広がる」と願う。（浦添）

スポーツ王国を

「琉球新報」9/30号より転載

NTS2004報告

NTSコーディネーター 栗山 雅倫

各地区でのブロックトレーニングも終了し、全ブロックよりセンタートレーニングへの参加選手が推薦されました。今回は、高校生のセンタートレーニング推薦者をお知らせいたします。なお、今回のセンタートレーニングの予定は･･･

高校生 12月23日、24日
　男子会場：大同特殊鋼　女子会場：ブラザー工業
中学生 1月8日、9日
　男子会場：大同特殊鋼　女子会場：ブラザー工業

＊以上は予定です。都合により、会場等の変更もございますので、あらかじめご了承ください。

センター推薦者名簿

高校生男子

都道府県名	選手名	学校名
岩手	鎌田正義	不来方
岩手	工藤義博	不来方
岩手	吉田大介	花巻北
宮城	郷古和之	冨谷
埼玉	畑山政也	浦和学院
埼玉	篠崎達也	浦和学院
神奈川	根本恭平	法政二
神奈川	夏山陽平	法政二
茨城	小川雄也	伊奈
茨城	染谷雄輝	伊奈
茨城	熊谷孟	伊奈
茨城	小室大地	藤代紫水
山梨	永瀬郁実	駿台甲府
富山	塚本琢也	高岡向陵
富山	石戸貴章	氷見
福井	白井宏典	北陸
福井	生川岳人	北陸
福井	加藤佳樹	北陸
福井	大嶋誉志央	北陸
愛知	樋口睦	愛知
愛知	山口真司	岡崎城西
三重	大畑俊輔	四日市四郷
三重	近藤拓也	四日市四郷
三重	樋口拓也	桑名工業
大阪	木村雅俊	桃山学院
大阪	森淳	此花学院
大阪	小山太三	上宮
大阪	姫田晶友	上宮
大阪	堀昭広	大体大浪商
和歌山	榎本直貴	紀北農芸
和歌山	松浦宏樹	紀北農芸
京都	吉見健吾	洛北
山口	野村喜亮	下松工業
山口	重村翔平	下松工業
岡山	内藤雄貴	岡山理大付属
広島	吉田慶太	向原
香川	中井鮎人	香川中央
香川	吉嵜徹彦	香川中央
高知	和田浩史	岡豊
福岡	久保有希	久留米工大附
長崎	森田智史	瓊浦
長崎	田中雄大	瓊浦
長崎	佐藤達郎	長崎日大
大分	米倉章弘	大分国際情報
宮崎	白石裕樹	小林工業
宮崎	甲斐昭人	小林工業
沖縄	棚原良	興南
沖縄	東長濱秀希	興南
沖縄	内田武志	興南

高校生女子

都道府県名	選手名	学校名
北海道	増子友里恵	札幌月寒
岩手	降旗舞	不来方
秋田	進藤麻衣	大曲農
福島	菅井歩希	郡山東
福島	大河内香	郡山東
群馬	小菅由貴	吉井
山梨	小林亜理紗	日川
神奈川	田崎美波	横浜創英
神奈川	川島未希	横浜創英
茨城	川崎愛	土浦三
茨城	小林彩香	水海道
石川	石立真悠子	小松市立
石川	内平亜希	小松市立
石川	河崎ゆりえ	小松市立
富山	作内杏那	高岡向陵
福井	八十島智美	福井商
愛知	田口舞	桜花学園
愛知	山下裕美子	桜花学園
愛知	高橋恵	桜花学園
愛知	中本由希子	桜花学園
岐阜	池之端弥生	高山
静岡	梅林由	清水商業
三重	渡部京子	暁学園
三重	濱田清可	暁学園
三重	荒木佳子	暁学園
三重	坂嵜友紀	暁学園
京都	寺田三友	紀洛北
京都	野田えりか	洛北
兵庫	住野有梨	夙川学院
兵庫	堀田志穂	夙川学院
大阪	柴山朋子	桜宮
山口	西村友理佳	高水
岡山	鶴海未季	玉野光南
広島	徳山あさみ	向原
愛媛	宮崎綾	松山北
香川	塩田紗代	高松商業
香川	蘆原沙織	高松南
佐賀	野口徳子	神埼清明
長崎	山本沙織	長崎聖和女学院
大分	平川彩	大分鶴崎
熊本	小松史果	熊本国府
鹿児島	山田愛美	蒲生
沖縄	儀間晴香	那覇西
沖縄	大城夕貴	浦添
沖縄	比嘉陽香	浦添
沖縄	内間小百合	浦添
沖縄	當間麻紀乃	陽明

全日本女子U-16ハンドボール女子第8回交流受け入れ報告

交流を終えて確かな手応えを実感



U－16女子監督　東江　正作
（日本ハンドボール協会）



8回目となる日韓親善ハンドボール交流会は、8月30日をもって無事終了することが出来ました。今回は、7月の上旬と8月の下旬に分かれての訪韓、受け入れの日程となりました。これは韓国側がアテネ五輪出場のために従来通りの日程が不可能というためで、やや複雑な心境でありましたが、選手にとってはむしろこのことが幸いであったと思われます。

体力的にも精神的にも一回り成長して8月24日に沖縄県に集合し、25日から早速トレーニング等に入りました。前期に導入したディフェンスやオフェンスシステム中心の練習メニューからテストマッチまで、正味4日間の中ではありましたが実りあるものとなりました。また、レセプションでは浦添市長からの激励をいただき、練習や親善試合などは地元の方々の誠意あふれる対応ぶりで、特に親善試合では、地元の新聞社（2社）はもとよりテレビ局までもが駆けつけてくれ、大変心強く感じさせられました。そんな雰囲気の中で試合が開始、前半は2点リードされた形からのスタートをすぐに追いつき一進一退のゲーム展開となり、17分過ぎに日本がディフェンスからの速攻を3連取し、結局2点リードで折り返す。日本がリードしたことで韓国側は10分間のハーフタイムが過ぎてもコートに現れず再開が遅れました。後半は7分過ぎに逆転されるが日本も応戦し、15分過ぎにディフェンスシステムを機能させ速攻など相手のミスを誘い、追い上げたが結局17－20で敗れる。

今回の親善試合では、一線ディフェンス（6－0）からのプレスを主体として行いましたが、トレーニングと選手たちのトライする精神で概ね機能していました。ゲーム後には選手たちに次につながる好ゲーム、5月の選考合宿、7月の前期日程から比べれば格段のレベルアップしたチームになったと評価しました。ただし、今後の課題としてはいかに攻撃力をつけていくか、BP（バックプレーヤー）の育成が鍵になると思われます。

韓国の今年のチームは、前期の報告でも述べましたがかなり身体的に大きく、有望視されている年代、日本チームも大いに今後期待できる選手たちだと思います。さらに各所属チームで精進されることを望みたいと思います。

終わりに、この事業にご尽力いただきました沖縄県協会、高体連・中体連の先生方、市長はじめとする浦添市の関係各位、誠にありがとうございました。また、各選手、監督、コーチ、トレーナーの所属長様、各教育委員会のご理解とご協力を賜り重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。日本の将来に明るい、意義のある事業であったことを申し上げ、報告と致します。



写真提供：沖縄タイムス社（2枚とも）

期日：2004年8月25日～8月30日
場所：沖縄県浦添市民体育館
内容：
①練習トレーニング
（20メートル対角線アップ、フットワーク、1対1、2対2、3対3、4対4ポスト有り、4角パス、対角線パス、GK練習、6人のボール回し、6対6、速攻練習等）
②練習マッチ
8/26：25分
日本17－9沖縄県中学生選抜
日本6－11韓国
韓国12－14沖縄県中学生選抜
8/27：25分
日本11－10韓国
日本10－14韓国
8/28：25分
日本14－12沖縄県中学生選抜
日本5－11韓国
韓国14－9沖縄県中学生選抜
日本12－10沖縄県中学生選抜
③親善試合：25分ハーフ
日本17（9-7、8-13）20韓国

審判部便り

平成16年度 トップレフェリー研修会（広島）報告



茨城県ハンドボール協会審判長　福田　弘（茨城県立竜ヶ崎第二高等学校）



挨拶する斎藤審判部長と審判審査指導委員

1：はじめに

平成16年度のトップレフェリー研修会は7月24日（土）、25日（日）の両日、第10回アジア女子選手権と並行して広島市で行われました。

2：日程概要

初日は10のテーマ（後述）に分かれて分科会を形成し、その視点で韓国対中国の試合観戦、レフェリーチェックを行いました。担当レフェリーは男子世界選手権の吹笛経験を持つシリアのレフェリーでした。ゲーム終了後直ちに分科会毎に討議し（約1時間半）事象の整理をしました。

2日目、8時半より全体会、各分科会討議の結果を発表し、ビデオで検証しました。続くパネルディスカッションでは、樫塚正一氏、藤本元氏、中山剛氏をパネラーに、斎藤実審判部長の司会のもと、有益なお話を伺うことができました。最後にパッシブプレーの判定に関する伝達講習（IHF映像含む）を岸本光夫氏（競技規則検討委員長）が行いました。

以上が全体の流れですが、いくつかの点をもう少し詳しく報告させていただきます。

3：テーマ別分科会、討議結果の発表と検証

1班：ゲームの流れとアドバンテージに関して　座長：川島克之氏
2班：攻撃側の反則に関して　座長：三枝慶彦氏
3班：段階罰の適用に関して　座長：上久保重次氏
4班：ステップの判定に関して　座長：岸本光夫氏
5班：ゴールエリアへの侵入に関して　座長：東　昌弘氏
6班：7mスローの判定に関して　座長：越田義昭氏
7班：パッシブプレーの判定に関して　座長：島田房二氏
8班：各種スローが正しく行われているかに関して　座長：早川清孝氏
9班：ダブルドリブル・キック・オーバータイム等の判定に関して　座長：森山正治氏
10班：ジェスチャー・位置取り・雰囲気等に関して　座長：細澤　覚氏

各班で整理した内容が映像で即座に映し出されたことが非常によかったと思います。発表に納得したり、違う意見を出し合ったりできたのも、そこにその映像があったからこそ意味をもてたと思います（特に解り易かったのは映像を見ながら解説してくださった上久保氏）。

この形式は普段のペアーの判定基準のすりあわせにとても役立つ方法だと思います。ペアーだけだと、「こだっぺ。んじゃね、おらこうだっぺど思う」などともめてしまう恐れもあるので、大会中5、6人、3ペアー位でビデオを撮り合い、ああだ、こうだ言い合えるとよいと思います。

徹夜でビデオの編集をしてくださった、島田氏、岸本氏には深く感謝いたします。

4：パネル・ディスカッション

司　　会：斎藤　実氏（日本協会審判部長）
パネラー：樫塚正一氏（武庫川女子大学教授）
　　　　　藤本　元氏（前シャトレーゼ監督）
　　　　　中山　剛氏（湧永製薬監督）

「レフェリーに望むこと」というテーマでディスカッションがなされました。印象に残った内容をいくつか報告します。

①プレーヤー、コーチ、レフェリーは「素晴しいハンドボール」のための大切な3つの要素として協力し合う存在（少なくとも敵対するものではない）である。
②よいゲームではプレーヤーが主役、コーチ、レフェリーはアシスタントである（レフェリーは目立ち過ぎるな）。
③ゲームの流れを作るのがレフェリーである。
④ゲームの流れの中で戦術を与えるのがコーチである。
⑤ゲームの流れが変る3つの原因、プレーヤーのミス、コーチのミス、レフェリーのミス、ミスをなくす努力をお互いにしてゆこう。
⑥ゲームの流れを作るためには、アドバンテージルールをうまく使い、プレーが切れてから判定しよう。
⑦全体的な読み、戦術的な先読みがなく、プレーを細切れにしてしまうのはよくない。


テーマ別分科会でのディスカッション

⑧判定の基準が一定であれば多少間違っていても、コーチやプレーヤーは対応できる。
⑨テリトリーの内と外でのミス、それぞれへの対応の準備がいる（特にパニック時）。
⑩ハンドボールの理念、ルールの変更の意図するところを理解して笛を吹こう。
⑪世界のプレーはすごい、レフェリーも頑張ってください。
⑫レフェリーとして、プレーヤーの安全管理、良いプレーの見極め、テクニックの知識、個人やチームの戦術の先読み、勇気ある判定、に力を入れてください。
⑬プレーを分析する目：ある時は全体を見渡し、ある時はそこのプレーに焦点を当てて判定する（ＯＦの勝ちなのか、ＤＦの勝ちなのか）。
⑭全日本強化合宿や日本リーグチームの練習試合にレフェリーに笛吹参加をしてもらって、意見の交換をするのはいかがでしょうか。
⑮レフェリーは職業人である。グレーゾーンを上手く裁いて吹くヨーロッパのレフェリーに、３ヶ月くらい帯同して研修するのはいかがでしょうか。
⑯日本が強くなるためにはどうすればよいのか、レフェリーも、コーチも、プレーヤーも一緒に考えていきましょう。
⑰プレーヤーとコミュニケーションを取るべきだと思います。自信のない笛を吹いてプレーヤーと目を合わせないのは、弱々しく見えてしまいます。また、いつも鬼瓦みたいな顔をしないで時には笑顔もいいと思います。
⑱ペアーの基準を合わせて欲しい。
⑲生活をかけ、一生懸命ハンドボールをやっていても、笛一つでプレーさせてもらえないことが国際試合ではよくあります。ビデオ映像等でチェック、分析して研修してください。
⑳ベンチでのアピールはやります。でも、これは自分の選手向けパフォーマンスの場合が多いです。悪い印象を持たないでください。

もう一つ印象に残ったのは、ベンチにいる時の判定の受け入れ方です。「レフェリーの判定に自分の感情を残さないようにしている」とのこと。まさに悟りの境地なり。

5：パッシブプレーの判定に関する伝達（抜粋）

①目的：活動的でない状況を減らし、効果的な競技時間を増やす。より魅力的で、スピーディーなプレーを展開させる。
②メイン伝達事項：タイムアウトをとらずに、各スローを与えられた際、明らかにスローを実施したくないという態度をとっている場合には、タイムアウトをとらずに「速やかにスローを実施しなさい」と指導（言葉とジェスチャーで）する。指導に従わない場合、スローオフ直後に予告ジェスチャーを出す。もちろん、繰り返されたりした場合にはタイムアウトも、段階罰もありうる。
③指示：パッシブプレーの判定と吹笛は、横か後方にパスされている時に限らなければならない。決して前方に移動しているときや、シュートを打つときであってはならない。

6：紙面報告（項目のみ）

①IHF レフェリーコース指導内容抜粋：斎藤実氏
②平成 15 年度全国大会反省より（審判部合同会議報告抜粋）

7：おわりに

「レフェリーの判定に地域差をなくすこと」を目指して行われた今年の研修会を実り多いものにする為には、参加した我々がそれぞれの持ち場でしっかりとした仕事をすることだと思います。「どんなケースでも最善の方法で、プレーヤーのよいプレーを引き出すジャッジをする努力を忘れてはならない」をモットーにしている斎藤審判長の姿勢に恥じないよう、努力してゆきたいと思います。
ありがとうございました。



2005年 1/22～2/8　**東京発**

第19回男子ハンドボール 世界選手権観戦ツアー in チュニジア

※お客様のご要望に応じて日数の変更、観光の組み入れも可能！
試合日程・組み合わせは【P28】をご参照ください

1月22日発 3泊5日間 248,000円
(開会式・オープニングマッチのみ観戦可能・2名1部屋利用のお一人様)

1月22日発 16泊18日間 358,000円
(全日程観戦可能・2名様1部屋利用のお一人様)

日次		スケジュール	宿泊	食事
1		午前：成田空港→(欧州内乗継)→チュニス 着後：ホテルへ(送迎付)	チュニス 泊	昼機 夕×
2		終日：開会式＆オープニングマッチ観戦 (※チケットは別売りです)	チュニス 泊	朝○ 昼× 夕×
3～16		終日：各自　試合観戦・または自由行動	チュニス 泊	朝○ 昼× 夕×
17	4	午後：ホテルをチェックアウト 送迎車で空港へ 夜　：　チュニス発→(欧州内乗継)→	機中泊	朝○ 昼× 夕機
18	5	午前：　→成田空港着		朝機

1名様より出発保証

ご注意

※相部屋はお受けできません。お一人で1部屋ご利用の場合は追加料金が必要になります。
※航空機発着時刻・便名は2004年8月1日現在です。予告無く変更になる場合があります。
※チュニジアの入国には入国時、滞在日数＋3ヶ月以上パスポート有効残存期間が必要です。
※観戦チケットは別手配です(主催旅行に含まれません)ご旅行の取消の場合でも、チケット代の返金は不可。

観戦チケットのご案内

※ 観戦チケットは、お客様のご希望で手配します。
※ お申込後の取消はできません。
取消した場合でもチケットのみのお渡しはできません
※ チケットは現地でのお渡しになります。
※ チケットはツアー代には含まれていません。
※ チケットの金額は下記のとおりです。
開会式・準決勝・決勝　¥3000
第一・第二ラウンド　¥2000

- 出発地：東京(東京以外の都市からご参加の場合、弊社までご相談ください。)
- 利用ホテル：　スタンダードクラス(例：ル　ディプロマット、エルハナインターナショナル、他)
- 食事：　朝食16回(5日間は朝食3回)・昼食0回・夕食0回
- 利用航空会社：　欧州系航空会社
- 添乗員：同行しません。現地係員の案内(送迎)になります。
- 最少催行人員：1名

～ご旅行条件～　(要約)

- 主催旅行契約
この旅行は(株)エモックエンタープライズ(以下、当社といいます)が主催する旅行であり。、この旅行に参加するお客様は当社と主催旅行契約を締結することになります。
- 旅行申込および契約の成立
所定の申込用紙にご記入いただき、FAXまたは郵送にてお申込ください。旅行契約は当社が契約の締結を承諾し、旅行代金を受領したときに成立するものとします。
- 旅行代金の支払
旅行代金のお支払いは出発日の前日から起算してさかのぼって30日目にあたる日より前にお支払いいただきます。
- 取消料
出発の前日から起算して30日前から取消の場合、取消料が必要になります。取消料は弊社までお問い合わせください。
- 一般旅行業務取扱主任者とは、お客様の旅行を取り扱う営業所で取引に関する責任者です。この旅行契約に関し、担当者からの説明にご不明な点があれば、ご遠慮なく取扱主任者にお訊ねください。

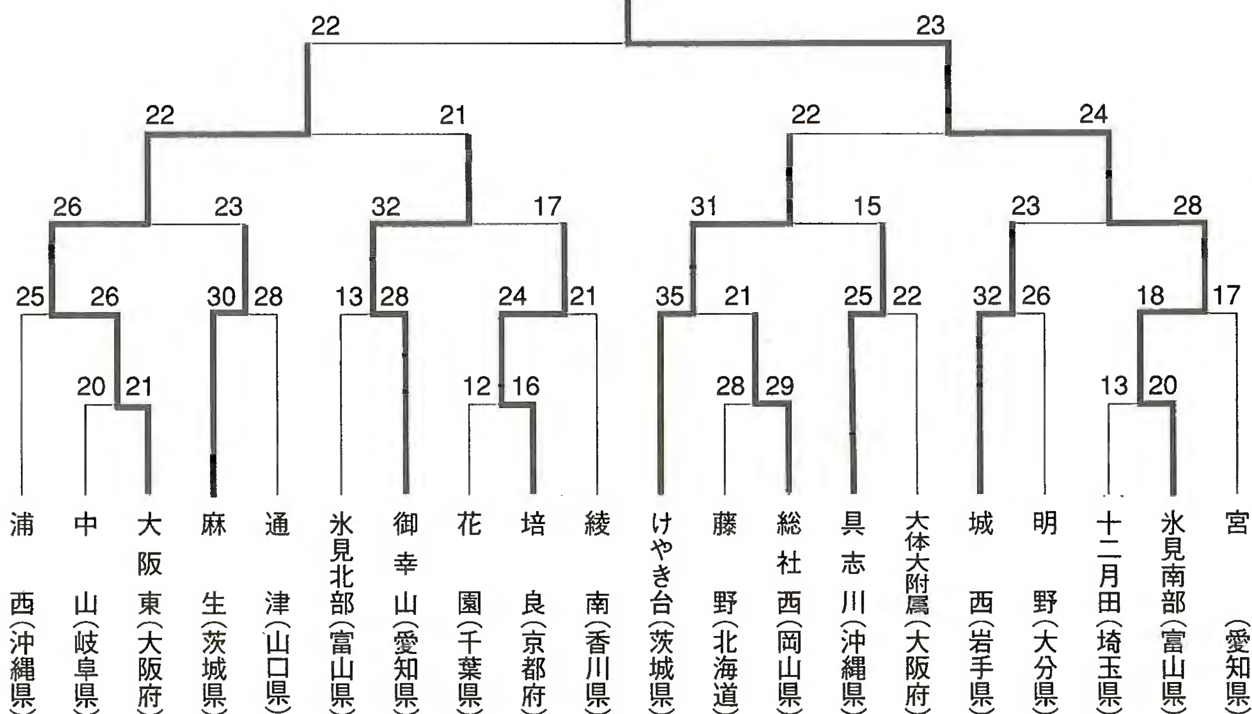
【旅行主催・お問合せ先】　《日本ハンドボール協会指定代理店》
(株)エモック・エンタープライズ
国土交通大臣登録旅行業第1144号　日本旅行業協会(JATA)　正会員
一般旅行業務取扱主任者：佐々木　雅之
東京都港区西新橋1－19－3　第2双葉ビル
TEL03－3507－9777　担当：市瀬・深野
http://www.amok.co.jp/

■旅行お申し込みの際には、必ず旅行条件書(全文)をご確認ください。

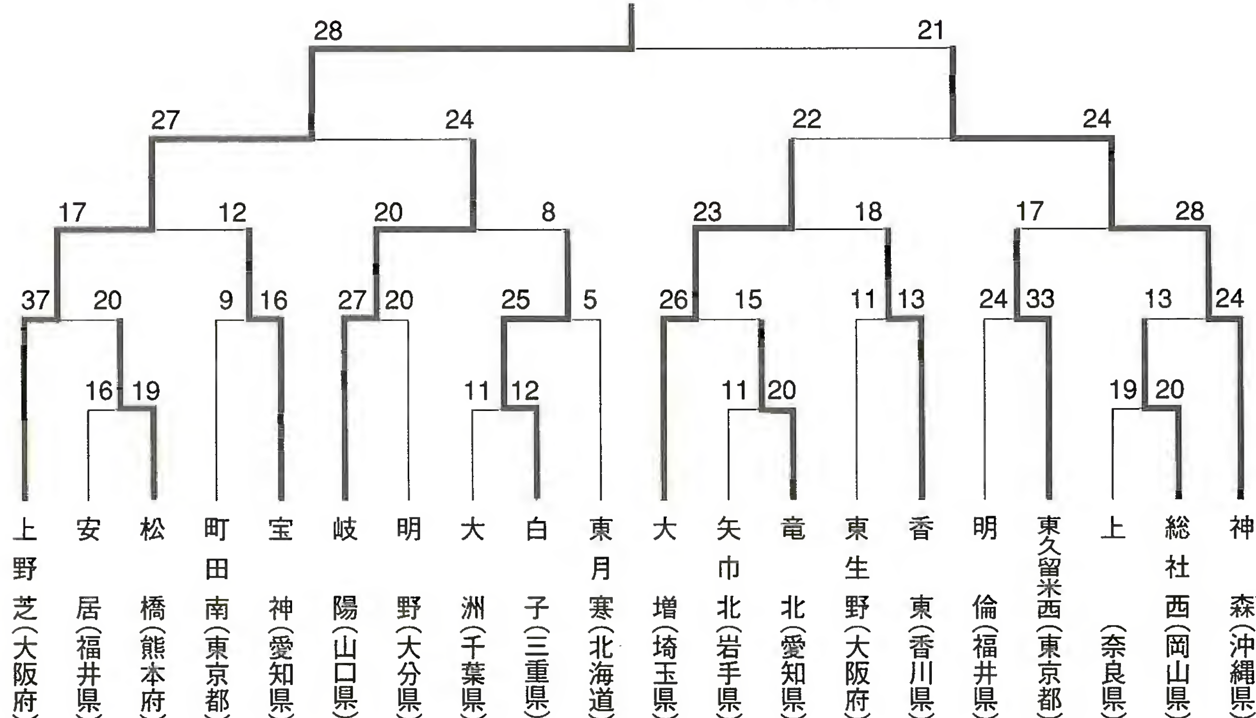
平成16年度全国中学校体育大会・第33回全国中学校ハンドボール大会

開催期日　平成16年8月21日(土)～24日(火)
会　　場　千葉ポートアリーナ、千葉県総合スポーツセンター体育館

＜男子＞



＜女子＞



スコアールーム ②

第17回全国小学生ハンドボール大会

開催期日　平成16年7月30日(金)～8月1日(日)
会　　場　京田辺市田辺中央体育館、同志社大学京田辺キャンパス体育館、京都府立田辺高等学校体育館

男子の部

優　勝：神森小学校ハンドボールクラブ（沖縄県）
準優勝：中央小ハンドボール部（熊本県）
3　位：松井ヶ丘小学校ハンドボールクラブ（京都府）
4　位：小島小球技クラブ（長崎県）

予選リーグ又はトーナメント結果

Aブロック

神森小学校クラブ（沖縄県）	20（12−7、8−5）12	香川町スポ少オリーブ君（香川県）
神森小学校クラブ	23（10−3、13−5）8	小金井レッドマシンガンズ（東京都）
香川町スポーツ	14（7−6、7−7）13	小金井レッドマシンガンズ

Bブロック

安芸高田クラブ（広島県）	18（11−2、7−6）8	高砂ジュニアクラブ（兵庫県）
スポ少守谷クラブ（茨城県）	15（8−6、7−7）13	窪スポ少（富山県）
スポ少守谷クラブ	10（5−3、5−2）5	安芸高田クラブ
窪スポ少	26（10−8、16−4）12	高砂ジュニアクラブ

Cブロック

塩山スポ少（山梨県）	14（6−5、8−6）13	鈴鹿スクール（三重県）
塩山スポ少	13（5−8、8−5）13	LITTLEGUTS（山口県）
鈴鹿スクール	20（11−12、9−7）19	LITTLEGUTS

Dブロック

小島小球技クラブ（長崎県）	15（9−5、6−2）7	薪スクール（開催地）
小島小球技クラブ	17（8−1、9−5）6	三郷クラブ（埼玉県）
薪スクール	19（8−3、11−2）5	三郷クラブ

Eブロック

松井ヶ丘小学校クラブ（京都府）	18（9−5、9−2）7	愛媛ジュニアーズ（愛媛県）
松井ヶ丘小学校クラブ	20（10−1、10−3）4	東根スポ少（山形県）
愛媛ジュニアーズ	12（4−6、8−5）11	東根スポ少

Fブロック

横瀬クラブ（大分県）	19（5−6、9−8）17 （3−0延長2−3）	安居ブルーサンダースポ少（福井県）
真弓クラブ（奈良県）	11（6−6、5−3）9	富岡イーグルス（群馬県）
横瀬クラブ	24（1−2、14−4）6	真弓クラブ
安居ブルーサンダーススポ少	22（8−4、13−2）6	富岡イーグルス

Gブロック

日知屋東小（宮崎県）	20（7−4、13−3）7	かやぎクラブ（北海道）
総社クラブジュニア（岡山県）	18（9−4、9−3）7	和歌山市（和歌山県）
日知屋東小	18（10−7、8−9）16	総社クラブジュニア
和歌山市	15（10−6、5−6）12	かやぎクラブ

Hブロック

中央小（熊本県	14（10−6、4−3）9	東海スクール（愛知県）
中央小	16（8−3、8−2）5	大浜キッズ（大阪府）
東海スクール	14（7−6、7−7）13	大浜キッズ

決勝トーナメント

1回戦

神森小学校クラブ（Aブロック1位） （3−1延長1−1）	18（8−8、6−6）16	スポ少守谷クラブ（Bブロック1位）
小島小球技クラブ（Dブロック1位）	14（9−3、5−5）8	塩山スポ少（Cブロック1位）
松井ヶ丘小学校クラブ（Eブロック1位）	23（13−9、10−7）16	横瀬クラブ（Fブロック1位）
中央小（Hブロック1位）	16（10−4、6−9）13	日知屋東小（Gブロック1位）

準決勝

神森小学校クラブ（沖縄県）	14（7−4、7−3）7	小島小球技クラブ（長崎県）
中央小（熊本県）	13（8−3、5−6）9	松井ヶ丘小学校クラブ（京都府）

3位決定戦

松井ヶ丘小学校クラブ	16（8−3、8−6）9	小島小球技クラブ

決勝戦

神森小学校クラブ	14（8−7、6−6）13	中央小

女子の部

優　勝：神森小学校ハンドボールクラブ（沖縄県）
準優勝：仏生寺スポーツ少年団（富山県）
3　位：三佐ハンドボールクラブスポーツ少年団（大分県）
4　位：当尾小学校（熊本県）

予選リーグ又はトーナメント詳細結果

aブロック

三佐クラブスポ少（大分県）	9（4−2、5−2）4	東海スクール（愛知県）
三佐クラブスポ少	16（7−2、9−1）3	三郷クラブ（埼玉県）
東海スクール	11（4−0、7−3）3	三郷クラブ

bブロック

塩山スポ少（山梨県）	12（5−1、7−3）4	真弓クラブ（奈良県）
塩山スポ少	21（10−3、11−1）4	かやぎクラブ（北海道）
真弓クラブ	12（7−2、5−1）3	かやぎクラブ

cブロック

富岡ラビッツ（群馬県）	13（8−3、5−3）6	桃園小学校チーム（開催地）
羽島クラブ（岐阜県）	17（10−7、7−7）14	富岡ラビッツ
桃園小学校チーム	12（7−5、5−5）10	羽島クラブ

dブロック

仏生寺スポ少（富山県）	19（10−8、9−6）14	岩国レインボーキッズ（山口県）
仏生寺スポーツ少	19（11−0、8−5）5	東根スポ少（山形県）
岩国レインボーキッズ	17（9−6、8−5）11	東根スポ少

eブロック

当尾小学校（熊本県）	17（7−2、10−8）10	松岡スポ少（福井県）
当尾小学校	26（8−8、18−4）12	笹川少（三重県）
松岡スポ少	22（11−3、11−6）9	笹川少

fブロック

小金井クラブ（東京都）	13（5−2、8−2）4	延岡東クラブ（宮崎県）
小金井クラブ	10（4−3、6−5）8	大浜キッズ（大阪府）
延岡東クラブ	16（6−2、10−5）7	大浜キッズ

gブロック

神森小学校クラブ（沖縄県）	10（6−2、4−4）6	瀬戸オールスターズジュニア（岡山県）
神森小学校クラブ	15（11−0、4−3）3	兵庫ジュニア（兵庫県）
瀬戸オールスターズジュニア	18（13−3、5−3）6	兵庫ジュニア

hブロック

松井ヶ丘小学校クラブ（京都府）	18（6−3、12−5）8	安芸高田クラブ（広島県）
松井ヶ丘小学校クラブ	17（10−2、7−5）7	塩江スポ少（香川県）
安芸高田クラブ	10（5−3、5−2）5	塩江スポ少

決勝トーナメント

1回戦

三佐クラブスポ少(aブロック1位)　15(12−3、3−7)10　塩山スポ少(bブロック1位)
仏生寺スポ少(dブロック1位)　15(6−2、9−2)4　富岡ラビッツ(cブロック1位)
当尾小学校(eブロック1位)　19(13−6、6−5)11　小金井クラブ(fブロック1位)
神森小学校クラブ(gブロック1位)　19(8−3、11−4)7　松井ヶ丘小学校クラブ(hブロック1位)

準決勝

仏生寺スポ少　12(7−10、5−3)13　三佐クラブスポ少
神森小学校クラブ　19(9−6、10−11)17　当尾小学校

3位決定戦

三佐クラブスポ少　17(11−9、9−7)16　当尾小学校

決勝

神森小学校クラブ　15(7−5、8−3)8　仏生寺スポ少

スコアールーム③

第9回女子ジャパンオープンハンドボールトーナメント兼第60回国民体育大会ハンドボール競技リハーサル大会

開催期日　平成16年8月11日(水)〜8月13日(金)　3日間
会　　場　県立津山工業高等学校体育館、鏡野町文化スポーツセンター、落合町総合公園白梅総合体育館

▽1回戦

MIE.Violet'IRIS(三重)　28(14−7、14−8)15　レキオクラブ(沖縄)
J.JGANG(福井)　37(16−7、21−7)14　境港クラブ(鳥取)
GET"SBOUNCE(兵庫)　29(14−9、6−11)22　かながわガビアーノ(神奈川)
(9延長2)
徳山クラブ(山口)　33(16−3、17−3)6　大農OG(秋田)
シャトレーゼクラブ(山名氏)　39(20−7、19−9)16　ninfa・kagoshima(鹿児島)
MMC(愛知)　29(14−13、15−13)26　京都クラブ(京都)
香川銀行T.H.(香川)　41(20−8、21−10)18　那覇西クラブ(沖縄)
HC東京VENUS(東京)　27(16−12、11−12)24　拳美組合(大阪)
射水クラブ(富山)　34(18−9、16−8)17　ホワイトピーチーズ(岡山)
コスモス・ビッキーズ(大分)　36(23−11、13−8)19　白梅三栄美会(岩手)
小松クラブ女子(石川)　30(16−7、14−15)22　あじこめ(神奈川)
HC岡山(岡山)　32(15−14、13−5)19　ナデシコクラブ(奈良)

▽2回戦(リーグ戦)

<津山会場Aブロック>

MIE.Violet'IRIS　29(16−12、13−8)20　GET"SBOUNCE
MIE.Violet'IRIS　24(13−9、11−10)19　J.JGANG
GET"SBOUNCE　26(12−9、14−12)21　J.JGANG

<津山会場Bブロック>

シャトレーゼクラブ　30(15−8、15−7)15　徳山クラブ
シャトレーゼクラブ　36(19−9、17−10)19　MMC
徳山クラブ　27(11−11、16−12)23　MMC

<鏡野会場>

香川銀行T.H.　35(21−8、14−13)21　HC東京VENUS
香川銀行T.H.　26(16−6、10−5)11　射水クラブ
HC東京VENUS　32(15−14、17−13)27　射水クラブ

<落合会場>

HC岡山　31(13−10、18−13)23　小松クラブ女子
HC岡山　34(17−10、17−9)19　コスモス・ビッキーズ
小松クラブ女子　24(12−9、12−12)21　コスモス・ビッキーズ

▽準決勝

HC岡山　24(11−12、13−6)18　香川銀行T.H.
シャトレーゼクラブ　29(11−14、12−9)28　MIE.Violet'IRIS
(3−3延長3−2)

▽3位決定戦

香川銀行T.H.　25(17−10、8−10)20　MIE.Violet'IRIS

▽決勝

HC岡山　26(14−17、12−6)23　シャトレーゼクラブ

スコアールーム④

第9回男子ジャパンオープンハンドボールトーナメント

開催期日　平成16年8月14日(土)〜8月17日(火)
会　　場　総社市スポーツセンター体育館、倉敷体育館、岡山県立倉敷青陵高等学校体育館

▽1回戦

香川クラブ(香川)　33(14−8、19−12)20　宮崎フェニックス(宮崎)
岩手教員クラブ(岩手)　29(16−8、13−14)22　マツダ(広島)
エルムクラブ(北海道)　42(20−4、22−5)9　チーム甲府(山梨県)
八光自動車工業株式会社(大阪)　26(12−10、14−13)23　MHC(三重)
FOG(千葉)　29(16−16、13−11)27　わかくさクラブ(奈良)
徳山クラブ(山口)　29(12−12、17−12)24　アローズ高知(高知)
大同クラブ(愛知)　24(9−8、15−6)14　NFC(福井)
氷見クラブ(石川)　23(13−11、10−10)21　HC秋田(秋田)
南海建設クラブ(沖縄)　21(14−8、7−12)20　小松クラブ(福井)
スワロークラブ(兵庫)　40(17−7、23−11)18　福島クラブ(福島)
桜門クラブ(東京)　32(20−14、12−14)28　チームYASU(滋賀)
那覇西クラブ(沖縄)　29(14−11、15−12)23　海上自衛隊呉(広島)
埼玉教員クラブ(埼玉)　28(15−11、13−14)25　京都教員クラブ(京都)
自衛隊久里浜(神奈川)　31(16−10、15−14)24　宮城クラブ(宮城)
市岐商クラブ(岐阜)　24(12−9、12−11)20　久留米クラブ(福岡)
HC岡山(岡山)　40(21−10、19−9)19　チーム群馬(群馬)

▽2回戦

香川クラブ(香川)　23(13−9、10−10)19　岩手教員クラブ(岩手)
八光自動車工業(大阪)　25(8−13、17−10)23　エルムクラブ(北海道)
徳山クラブ(山口)　25(12−12、13−9)21　FOG(千葉)
大同クラブ(愛知)　20(10−7、10−9)16　氷見クラブ(石川)
スワロークラブ(兵庫)　30(16−9、14−10)19　南海建設クラブ(沖縄)
那覇西クラブ(沖縄)　32(21−9、11−10)20　桜門クラブ(東京)
埼玉教員クラブ(埼玉)　23(13−9、10−8)17　自衛隊久里浜(神奈川)
HC岡山(岡山)　35(18−8、17−15)23　市岐商クラブ(岐阜)

▽準々決勝

八光自動車工業　24(13−13、11−9)22　香川クラブ
大同クラブ　24(13−4、11−9)13　徳山クラブ
那覇西クラブ　39(19−15、20−13)28　スワロークラブ
HC岡山　35(16−10、19−13)23　埼玉教員クラブ

▽準決勝

大同クラブ　30(17−9、13−5)14　八光自動車工業
HC岡山　35(20−13、15−11)24　那覇西クラブ

▽3位決定戦

那覇西クラブ　30(8−10、15−13)27　八光自動車工業
(3−2延長4−2)

▽決勝

HC岡山　27(14−6、13−11)17　大同クラブ

スコアールーム ⑤

第12回全日本ハンドボールマスターズ大会

開催期日： 平成16年7月24日(土)、25日(日)
会　　場： 花巻市総合体育館、富士大学スポーツセンター

◆男子順位決定リーグ（予選リーグの結果は略）

1位リーグ

順位	＊＊＊	埼玉	広島	岩手	勝敗	総得点	総失点	得失点差
1位	埼玉フェニックス（埼玉）	＊＊＊	15○13	21○6	2勝	36	19	＋17
2位	WAKUNAGA（広島）	13×15	＊＊＊	23○19	1勝1敗	36	34	＋2
3位	ガンバ花クラブ（岩手）	6×21	19×23	＊＊＊	2敗	25	44	−19

2位リーグ

順位	＊＊＊	東京	神奈川	東京	勝敗	総得点	総失点	得失点差
4位	オールドフェイス（東京）	＊＊＊	23○11	17○12	2勝	40	23	＋17
5位	海自桜錨会（神奈川）	11×23	＊＊＊	14○13	1勝1敗	25	36	＋11
6位	神楽坂フェニックス（東京）	12×17	13×14	＊＊＊	2敗	25	31	−6

3位リーグ

順位	＊＊＊	山口	青森	山形	勝敗	総得点	総得点	得失点差
7位	徳山クラブ（山口）	＊＊＊	16○13	17○6	2勝	33	19	＋14
8位	青森選抜（青森）	13×16	＊＊＊	17○12	1勝1敗	30	28	＋2
9位	新庄クラブ（山形）	6×17	12×17	＊＊＊	2敗	18	34	−16

◆女子順位決定リーグ（予選リーグの結果は略）

順位	＊＊＊	風見鶏	ファニ	シモン	山形	勝敗	総得点	総得点	得失点差
1位	風見鶏ファミリー	＊＊＊	16○8	14△14	10○7	2勝1分	38	29	＋9
2位	ファニーチェ	8×14	＊＊＊	15○13	11○8	2勝1敗	34	35	−1
3位	シモンズ	14△14	13×15	＊＊＊	13○8	2勝1分1敗	40	37	＋3
4位	マミーズ	7×10	8×11	8×13	＊＊＊	3敗	23	34	−11

ギャロップL（交流型A1位）　13−5　FCC（順位決定型A3位）
スズッキーズ（順位決定型B3位）　13−8　瀬戸内レディース（交流型B1位）

◆男子交流戦（予選リーグの結果は略）

2日目（予選リーグの結果による対戦）

岩手フェザントJr（A5位）	10−8	花巻桜雲会	（B6位）
岩手フェザント（C6位）	12−6	櫻ドール	（B5位）
盛岡FUWAKU（A6位）	13−7	オールド愛媛	（C5位）
HC名古屋（A3位）	9−6	葵クラブLBC	（B4位）
三景（C4位）	14−3	盛岡商友会	（B3位）
東京クラブ連盟（A4位）	12−7	46G会	（C3位）
湯沢クラブ（A1位）	14−10	七戸ユニオン	（B2位）
白亜 Hot JAJA（C2位）	6−5	泉丘会	（B1位）
生駒オークス（A2位）	9−8	兵庫選抜	（C1位）

◆女子交流戦

◇交流戦1

A組

順位	＊＊＊	ギャロ	武蔵野	大阪	勝敗
1位	ギャロップL	＊＊＊	6○4	15○6	2勝
2位	武蔵野クラブ	4×6	＊＊＊	9○7	1勝1敗
3位	大阪モッピークラブ	6×15	7×9	＊＊＊	2敗

B組

順位	＊＊＊	瀬戸内	名古屋	ドリーム	勝敗
1位	瀬戸内レディース	＊＊＊	15○9	15○4	2勝
2位	HC名古屋	9×15	＊＊＊	8○7	1勝1敗
3位	ドリーム55	4×15	7×8	＊＊＊	2敗

瀬戸内レディース（B1位）　12（4−6、8−3）9　ギャロップL（A1位）

◇交流戦2

ドリーム55（B3位）　9−8　武蔵野クラブ（A2位）
HC名古屋（B2位）　12−6　大阪モッピークラブ（A3位）

ドリーム55（B3位）　13−7　大阪モッピークラブ（A3位）
HC名古屋（B2位）　9−6　武蔵野クラブ（A2位）

◆11人制大会

HC名古屋ATF & 岩手 & 中部ドレームズ　13（7−6、6−3）9　LBCアルバトロス& 葵クラブ & 教職員連盟

協会だより

平成16年度9月常務理事会

日　時：平成16年9月4日（土）
場　所：東京体育館第3研修室
出席者：山下副会長、市原副会長、
　　　　大西専務理事、常務理事8名、
　　　　監事1名、事務局4名
　以上、出席理事13名（内委任状出席2名）、出席監事1名、欠席監事2名で議事成立

　山下副会長よりアテネオリンピックのハンドボールテレビ放送についての感想が述べられた。引き続き、JOC役員としてアテネに行かれた市原副会長からは、日本の予想以上の成果とその理由が説明され、ハンドボールの北京五輪への出場の必要性が述べられた。また、テレビ解説者としてアテネに行かれた緒方常務理事は、韓国女子の信念、執念ついて述べた。

審議事項

1. 第10回アジア女子選手権大会（ヒロシマ国際）決算書
　資料1を用いて、山下副会長から表記大会の報告と決算の説明がなされた。
　審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2. アジア女子ビーチハンドボール大会決算書
3. 世界ビーチ選手権大会全日本チーム参加について
　同時審議。
　資料2表記大会の決算、資料3により事業計画が角常務理事よりなされた。
　日本代表チームの活動については、ビーチハンドボールは現状予算面から国内における普及を第一義としている。強化・国際大会出場は、受益者負担とする。
　審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

4. JOC団体表彰（新設）推薦について
　大西専務理事より、資料4を用いて説明がなされた。
　JOCゴールドプラン、「企業とスポーツ」の主旨に鑑み、日本リーグ参加トップチームの企業からJOCに推薦することにした。
　審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

5. 朝日スポーツ賞推薦について
　資料5により、大西専務理事から説明がなされた。
　この賞は過去、オリンピックに出て成績を残した選手等が受賞しているもので、今回は推薦を見送る。
　審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

6. 渡欧派遣者日本協会推薦について
　スウェーデンでのハンドボール研修希望者S氏へ、日本協会として推薦書を発行する。
　審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

報告事項

1. AHF役員候補
　資料7により、大西専務が説明を行う。
　正副会長会で選定した役員を候補とすることにした。

2. アテネオリンピック
　資料8を用いて報告がなされた。

3. 登録制度の見直しについて
　江成常務理事より、資料9を用いて登録金の改正（案）、登録制度の改善（案）の説明がなされた。多くの意見が出されたので、これをもとに検討を行い、国体までにたたき台を作成する旨、江成常務理事より発言がなされた。

4. 第59回埼玉国体について
　資料10を用いて説明がなされた。
　大会開催日の役員配置、日程、宿泊について説明がなされた。

5. 規程集などについて
　平岡常務理事より、規程集の印刷がストップしているいきさつの説明がなされた。
　改正案を全国理事会、評議員会に提案した後に印刷を行う旨説明がなされた。
　規程集の変更は平成17年4月1日とする。

6. 都道府県協会連絡事項について
　兼子事務局長より、資料11を用いて報告がなされた。

7. 世界男子選手権大会（チェニジア）観戦ツアーについて
　エモック主催の男子世界選手権（チェニジア）ツアー旅行の案内が資料12として示された。
　機関誌を通しても告知を行う。

8. 平成17年度以降公認スポーツ指導者専門科目カリキュラム
　角常務理事より、資料13を用いて説明がなされた。

9. NTS（日本リーグ活性化プログラム）
　川上常務理事より以下のような説明が成された。
　サマーキャンプは柏崎（8/9,10）、東京（8/30,31）で行われ、中身が濃いと好評であった。またスポーツ振興財団からの視察でも好評であった。
　チャレンジリーグが現在開催中である旨説明がなされた。

10. 平成16年度大会結果、予定（組合せ）
　資料14により説明が成された。

11. マーケティング（JOC他）
　石井常務理事より資料15を用いて以下の事柄について説明が成された。
　JOCタイアップ事業について
　ヘンプジャパン等の委託契約、ロイヤリティーについて

12.10万人会
　平岡常務理事より、資料16を用いて説明がなされた。
　国体時の全国理事長会の席において、サポート会員獲得成功例の発表を行う旨大西専務理事より発言がなされた。
　キャンペーン期間の設定の提案が市原副会長よりなされた。
　サポート会員確保が、都道府県協会の財源確保になることを更に周知させていく。

13. その他
・角常務理事より、JOC大会参加チーム数の増を検討していること、デンマーク報告およびハンドボールによる地域興しについて近々報告あると説明される。
・越智氏（愛媛県）より寄附が成された。常務理事会として感謝の意を表し、その旨議事録に残し、会長名で感謝状を贈呈する。

その他資料
1. 事務局連絡資料
2. 国際関係資料
3. 平成16年7月常務理事会議事録
4. 第29回日本リーグプログラム

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」9月入会・継続会員

【北海道】高橋英明　【宮城】菅原良輔　【福島】舎利弗　学　【茨城】中馬睦子　【埼玉】細津　誠　【東京】古矢博己、平賀とみ子、後藤恵理子、松井郁雄　【富山】西坂真理子、越前明子　【愛知】田中基明、西　みどり、石黒育世　【滋賀】大迫祐介　【大阪】塩田芳弘、塩田春美、田中幸二郎、田中いつみ、西江将之　【奈良】木村加代、木村和正、木村雅俊　【島根】森江和吉、奥村佳弘　【広島】森岡　勝、河本幸枝、河本幸男　【高知】澤田哲雄、平野まゆみ　【熊本】田北久美子　【宮崎】瀬崎智仁　【沖縄】大城太郎、大城　聡、大城大二郎

★★

＜第19回世界男子ハンドボール選手権大会＞

開催期日　200年1月23日(日)～2月6日(日)
開 催 国　チュニジア

試合方式　予選ラウンド（4組6チーム1回戦総当たり方式）後、各組上位3チームによる本戦ラウンド（2組6チーム1回戦総当たり（予選ラウンドの成績持ち込み））を行い、各組上位2チームによる決勝トーナメント

予選リーグ組分け

Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
デンマーク	スロベニア	クロアチア	ドイツ
フランス	ロシア	スウェーデン	セルビア・モンテネグロ
チュニジア	チェコ共和国	スペイン	ノルウェー
ギリシャ	クウェート	アルゼンチン	エジプト
アンゴラ	アイスランド	日本	ブラジル
カナダ	アルジェリア	オーストラリア	カタール

【11月の行事予定】

【大会】…………………………………………………………

11月24日～28日
高松宮記念杯男子47回女子40回全日本学生選手権大会（沖縄県浦添市）

11月26日～12月1日
第2回ビーチハンドボール世界選手権大会（エジプト・フルガタ）

【会議】…………………………………………………………

11月13日　常務理事会／第2回理事会（東京）

HAND BALL CONTENTS Nov.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

HANDBALL

MIKASA®
http://www.mikasasports.co.jp

高いグリップ力を実現！
ミカサの人工皮革ハンドボール



HP300

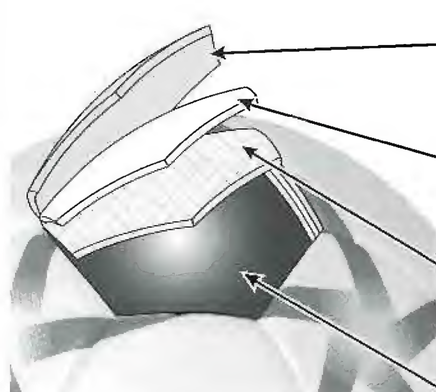
検定球3号、人工皮革
男子(一般･大学･高校)
カラー：イエロー



HP200

検定球２号、人工皮革
女子(一般･大学･高校)・中学校
カラー：イエロー

数々のテクノロジーがプレイをサポートします



ソフトで滑りにくい人工皮革

特殊フォームが触感を向上させ、
衝撃をやわらげます

丸さとサイズを保つ特殊補強布

バルブ落下防止構造のラテックスチューブ

株式会社 ミカサ

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四五五号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成十六年十月二十六日印刷 平成十六年十一月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一 電話 代表 三四八一－二三六一 振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三

編集兼発行人 大西武三

定価 年間三三〇〇円